

日本国特許庁 *Masashi HAMADA*
JAPAN PATENT OFFICE 4-26-61

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日
Date of Application: 2000年 5月 2日

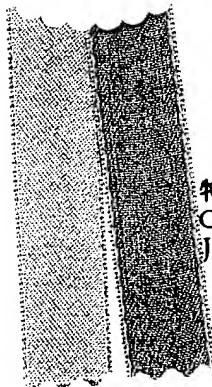
出願番号
Application Number: 特願2000-133469

出願人
Applicant(s): キヤノン株式会社



CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

2001年 5月 30日



特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2001-3046959

【書類名】 特許願

【整理番号】 3997006

【提出日】 平成12年 5月 2日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H04N 5/00

【発明の名称】 ユーザプロファイルの記憶方法、記憶装置、ユーザプロファイルの記憶媒体、情報端末装置及びプログラム格納した記憶媒体

【請求項の数】 26

【発明者】

【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社内

【氏名】 浜田 正志

【特許出願人】

【識別番号】 000001007

【氏名又は名称】 キヤノン株式会社

【代理人】

【識別番号】 100090273

【弁理士】

【氏名又は名称】 國分 孝悦

【電話番号】 03-3590-8901

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 035493

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9705348

特2000-133469

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 ユーザプロファイルの記憶方法、記憶装置、ユーザプロファイルの記憶媒体、情報端末装置及びプログラム格納した記憶媒体

【特許請求の範囲】

【請求項1】 ユーザのプロファイルを記憶媒体に記憶するための個別ファイルを階層的に複数層分用意し、高レベルなセキュリティが要求されるユーザのプロファイルは深い階層の個別ファイルに記憶し、積極的な提示が要求されるユーザのプロファイルは浅い階層の個別ファイルに記憶することを特徴とするユーザプロファイルの記憶方法。

【請求項2】 ユーザのプロファイルを記憶媒体に記憶するための個別ファイルを階層的に複数層分用意し、高レベルなセキュリティが要求されるユーザのプロファイルは認証処理が必要な個別ファイル、または認証処理が必要な個別ファイルの下層に記憶し、積極的な提示が要求されるユーザのプロファイルは浅い階層の個別ファイルに記憶することを特徴とするユーザプロファイルの記憶方法

【請求項3】 階層的に構成可能な個別ファイル内に存在する、少なくとも1つ以上の情報格納ファイル内に情報を記憶する方法であって、上記個別ファイル毎に独立した認証鍵を割り当てるようにユーザのプロファイルを記憶する方法において、

上記ユーザのプロファイルを記憶するための個別ファイルを上記記憶媒体に複数層分用意し、高レベルなセキュリティが要求されるユーザのプロファイルは深い階層の個別ファイルの情報格納ファイルに記憶するとともに、積極的な提示が要求されるユーザのプロファイルは浅い階層の個別ファイルの情報格納ファイルに記憶することを特徴とするユーザプロファイルの記憶方法。

【請求項4】 上記積極的な提示が要求されるユーザのプロファイルが格納された個別ファイルには認証鍵を割当てず、自由なアクセスを可能にしたことを行う特徴とする請求項1～3の何れか1項に記載のユーザプロファイルの記憶方法。

【請求項5】 上記積極的な提示が要求されるユーザのプロファイルは、使用言語、要望する入出力インターフェース、それ以降の階層に認証処理を行うため

の情報、上記記憶媒体の所有者の基本情報であることを特徴とする請求項1～4の何れか1項に記載のユーザプロファイルの記憶方法。

【請求項6】 上記高度なセキュリティが必要なユーザのプロファイルは、ユーザの嗜好に関する情報、同一記憶媒体内に存在する他の個別ファイルの認証鍵情報、上記記憶媒体の所有者のプライバシーに関する情報を特徴とする請求項1～5の何れか1項に記載のユーザプロファイルの記憶方法。

【請求項7】 ユーザのプロファイルを記憶するための個別ファイルを記憶媒体に階層的に複数層分が用意されていて、高レベルなセキュリティが要求されるユーザのプロファイルは深い階層の個別ファイルに記憶され、積極的な提示が要求されるユーザのプロファイルは浅い階層の個別ファイルに記憶されていることを特徴とするユーザプロファイルの記憶媒体。

【請求項8】 ユーザのプロファイルを記憶するための個別ファイルを記憶媒体に階層的に複数層分が用意されていて、高レベルなセキュリティが要求されるユーザのプロファイルは、認証処理が必要な個別ファイルか、または認証処理が必要な個別ファイルの下層に記憶され、積極的な提示が要求されるユーザのプロファイルは浅い階層の個別ファイルに記憶されていることを特徴とするユーザプロファイルの記憶媒体。

【請求項9】 階層的に構成可能な個別ファイル内に存在する、少なくとも1つ以上の情報格納ファイル内に情報が記憶可能であり、上記個別ファイル毎に独立した認証鍵を割り当てることが可能な記憶媒体であって、

上記個別ファイルを複数層分用意し、高レベルなセキュリティが要求されるユーザのプロファイルは深い階層の個別ファイルの情報格納ファイルに記憶され、積極的な提示が要求されるユーザのプロファイルは浅い階層の個別ファイルの情報格納ファイルに記憶されていることを特徴とするユーザプロファイルの記憶媒体。

【請求項10】 上記積極的な提示が要求されるユーザのプロファイルが格納された個別ファイルには認証鍵を割当てず、自由なアクセスを可能にしたことを特徴とする請求項7～9の何れか1項に記載のユーザプロファイルの記憶媒体。

【請求項11】 上記積極的な提示が要求されるユーザのプロファイルは、使用言語、要望する入出力インターフェース、これ以降の階層に認証処理を行うための情報、上記記憶媒体の所有者の基本情報であることを特徴とする請求項7～10の何れか1項に記載のユーザプロファイルの記憶媒体。

【請求項12】 上記高度なセキュリティが必要なユーザのプロファイルは、ユーザの嗜好に関する情報、同一記憶媒体内に存在する他の個別ファイルの認証鍵情報、上記記憶媒体の所有者のプライバシーに関する情報を含むことを特徴とする請求項7～11の何れか1項に記載のユーザプロファイルの記憶媒体。

【請求項13】 上記記憶媒体はICカードであることを特徴とする請求項7～12の何れか1項に記載のユーザプロファイルの記憶媒体。

【請求項14】 上記記憶媒体は携帯端末であることを特徴とする請求項7～12の何れか1項に記載のユーザプロファイルの記憶媒体。

【請求項15】 上記請求項7～14の何れか1項に記載のユーザプロファイルの記憶媒体とデータ通信を行うことが可能に構成されていることを特徴とする情報端末装置。

【請求項16】 上記請求項7～14の何れか1項に記載のユーザプロファイルの記憶媒体が装着された際に、上記ユーザプロファイルの記憶媒体に格納されている上記積極的な提示が要求されるユーザのプロファイル情報に従って、使用言語、入出力インターフェースを含む情報通信環境を、上記ユーザプロファイルの記憶媒体の所有者である利用者の所望の環境に変更することを特徴とする情報端末装置。

【請求項17】 上記請求項7～14の何れか1項に記載のユーザプロファイルの記憶媒体が装着された際に、上記ユーザプロファイルの記憶媒体に格納されている上記積極的な提示が要求されるユーザのプロファイル情報をを利用して、利用者の同一性判定処理を実行することを特徴とする情報端末装置。

【請求項18】 上記利用者の同一性判定処理の結果、現在の端末装置の利用者が正当なユーザであると判定した場合、上記高度なセキュリティが必要な個別ファイルへのアクセスを行うことを特徴とする請求項17に記載の情報端末装置。

【請求項19】 上記利用者の同一性判定処理の結果、現在の端末装置の利用者が不当なユーザであると判定した場合、上記高度なセキュリティが必要な個別ファイルへのアクセスは行わずに、今回の利用者の情報を上記記憶媒体に記憶するとともに、少なくともカード発行元及び警察を含む関係機関に通報することを特徴とする請求項17に記載の情報端末装置。

【請求項20】 ユーザのプロファイルを記憶媒体に記憶するための個別ファイルを階層的に複数層分用意し、高レベルなセキュリティが要求されるユーザのプロファイルは深い階層の個別ファイルに記憶し、積極的な提示が要求されるユーザのプロファイルは浅い階層の個別ファイルに記憶する手段を具備することを特徴とするユーザプロファイルの記憶装置。

【請求項21】 ユーザのプロファイルを記憶媒体に記憶するための個別ファイルを階層的に複数層分用意し、高レベルなセキュリティが要求されるユーザのプロファイルは認証処理が必要な個別ファイル、または認証処理が必要な個別ファイルの下層に記憶する手段と、積極的な提示が要求されるユーザのプロファイルは浅い階層の個別ファイルに記憶する手段とを具備することを特徴とするユーザプロファイルの記憶装置。

【請求項22】 階層的に構成可能な個別ファイル内に存在する、少なくとも1つ以上の情報格納ファイル内に情報を記憶する装置であって、上記個別ファイル毎に独立した認証鍵を割り当てるようユーザのプロファイルを記憶する装置において、

上記ユーザのプロファイルを記憶するための個別ファイルを上記記憶媒体に複数層分用意し、高レベルなセキュリティが要求されるユーザのプロファイルは深い階層の個別ファイルの情報格納ファイルに記憶するとともに、積極的な提示が要求されるユーザのプロファイルは浅い階層の個別ファイルの情報格納ファイルに記憶する手段を具備することを特徴とするユーザプロファイルの記憶装置。

【請求項23】 上記積極的な提示が要求されるユーザのプロファイルが格納された個別ファイルには認証鍵を割当てず、自由なアクセスを可能にしたことを特徴とする請求項20～22の何れか1項に記載のユーザプロファイルの記憶装置。

【請求項24】 上記積極的な提示が要求されるユーザのプロファイルは、使用言語、要望する入出力インターフェース、それ以降の階層に認証処理を行うための情報、上記記憶媒体の所有者の基本情報であることを特徴とする請求項20～23の何れか1項に記載のユーザプロファイルの記憶装置。

【請求項25】 上記請求項1～6の何れか1項に記載のユーザプロファイルの記憶方法を実行するプログラムをコンピュータから読み出し可能に格納したことなどを特徴とする記憶媒体。

【請求項26】 上記請求項20～24の何れか1項に記載のユーザプロファイルの記憶装置を構成するプログラムをコンピュータから読み出し可能に格納したことを特徴とする記憶媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明はユーザプロファイルの記憶方法、記憶装置、ユーザプロファイルの記憶媒体、情報端末装置及びコンピュータから読み出し可能な記憶媒体に関し、特に、ICカード等、階層的に構成可能な個別ファイル内に存在する、少なくとも1つ以上の情報格納ファイル内に情報が記憶可能であり、上記個別ファイル毎に独立した認証鍵を割当ることが可能な記憶媒体に用いて好適なものである。

【0002】

【従来の技術】

従来、ユーザのプロファイルの記憶媒体として多く用いられていた磁気記憶媒体、光学記憶媒体は、階層的に構成可能な個別ファイル内に存在する、少なくとも1つ以上の情報格納ファイル内に情報が記憶可能であるが、上記個別ファイル毎に独立した認証鍵を割当ることが不可能であったため、ユーザのプロファイルは全て一元的に記憶して認証鍵を割当ることにより保護されていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上記の従来例では以下のようないわゆる問題点があった。すなわち、従来の端末装置の場合には、ユーザのプロファイルを格納した記憶媒体が装着され

た際に、上記端末装置のユーザが初期認証処理を行うために必要な認証情報（パスワード等）を入力して初期認証処理に成功する前には、上記記憶媒体中のユーザのプロファイル情報を読み出すことができなかった。

【0004】

このため、初期認証処理を行うための認証情報の入力手段を含む、初期ユーザインターフェースの選択は端末装置側に委ねられているので、ユーザの嗜好と相容れないインターフェースが選択されてしまう可能性があった。

【0005】

例えば、ユーザは音声入力インターフェースを要望しているにもかかわらず、端末装置側はタッチパネルによる入力インターフェースを選択したりすることがあった。また、ユーザは使用言語として英語を要求しているにもかかわらず、端末装置側は日本語を使用言語と選択したりすることがあった。

【0006】

すなわち、従来情報端末装置とユーザプロファイルの記憶媒体との間で情報を送受信する場合には、初期認証処理が行われる前は、ユーザのプロファイルに対応したユーザインターフェースの選択は、ユーザのプロファイルのセキュリティレベルを維持したまま実現することは不可能であった。

【0007】

本発明は上述の問題点にかんがみ、高レベルなセキュリティが要求されるユーザのプロファイルを確実に保護した上で、ユーザが所望する入出力インターフェースを使用した情報の送受信を行うことができるようすることを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】

本発明のユーザプロファイルの記憶方法は、ユーザのプロファイルを記憶媒体に記憶するための個別ファイルを階層的に複数層分用意し、高レベルなセキュリティが要求されるユーザのプロファイルは深い階層の個別ファイルに記憶し、積極的な提示が要求されるユーザのプロファイルは浅い階層の個別ファイルに記憶することを特徴としている。

また、本発明の他の特徴とするところは、ユーザのプロファイルを記憶媒体に

記憶するための個別ファイルを階層的に複数層分用意し、高レベルなセキュリティが要求されるユーザのプロファイルは認証処理が必要な個別ファイル、または認証処理が必要な個別ファイルの下層に記憶し、積極的な提示が要求されるユーザのプロファイルは浅い階層の個別ファイルに記憶することを特徴としている。

また、本発明のその他の特徴とするところは、階層的に構成可能な個別ファイル内に存在する、少なくとも1つ以上の情報格納ファイル内に情報を記憶する方法であって、上記個別ファイル毎に独立した認証鍵を割り当てるようにユーザのプロファイルを記憶する方法において、上記ユーザのプロファイルを記憶するための個別ファイルを上記記憶媒体に複数層分用意し、高レベルなセキュリティが要求されるユーザのプロファイルは深い階層の個別ファイルの情報格納ファイルに記憶するとともに、積極的な提示が要求されるユーザのプロファイルは浅い階層の個別ファイルの情報格納ファイルに記憶することを特徴としている。

また、本発明のその他の特徴とするところは、上記積極的な提示が要求されるユーザのプロファイルが格納された個別ファイルには認証鍵を割当てず、自由なアクセスを可能にしたことを特徴としている。

また、本発明のその他の特徴とするところは、上記積極的な提示が要求されるユーザのプロファイルは、使用言語、要望する入出力インターフェース、それ以降の階層に認証処理を行うための情報、上記記憶媒体の所有者の基本情報であることを特徴としている。

また、本発明のその他の特徴とするところは、上記高度なセキュリティが必要なユーザのプロファイルは、ユーザの嗜好に関わる情報、同一記憶媒体内に存在する他の個別ファイルの認証鍵情報、上記記憶媒体の所有者のプライバシーに関する情報を含むことを特徴としている。

【0009】

本発明のユーザプロファイルの記憶媒体は、ユーザのプロファイルを記憶するための個別ファイルを記憶媒体に階層的に複数層分が用意されていて、高レベルなセキュリティが要求されるユーザのプロファイルは深い階層の個別ファイルに記憶され、積極的な提示が要求されるユーザのプロファイルは浅い階層の個別ファイルに記憶されていることを特徴としている。

また、本発明の他の特徴とするところは、ユーザのプロファイルを記憶するための個別ファイルを記憶媒体に階層的に複数層分が用意されていて、高レベルなセキュリティが要求されるユーザのプロファイルは、認証処理が必要な個別ファイルか、または認証処理が必要な個別ファイルの下層に記憶され、積極的な提示が要求されるユーザのプロファイルは浅い階層の個別ファイルに記憶されていることを特徴としている。

また、本発明のその他の特徴とするところは、階層的に構成可能な個別ファイル内に存在する、少なくとも1つ以上の情報格納ファイル内に情報が記憶可能であり、上記個別ファイル毎に独立した認証鍵を割り当てることが可能な記憶媒体であって、上記個別ファイルを複数層分用意し、高レベルなセキュリティが要求されるユーザのプロファイルは深い階層の個別ファイルの情報格納ファイルに記憶され、積極的な提示が要求されるユーザのプロファイルは浅い階層の個別ファイルの情報格納ファイルに記憶されていることを特徴としている。

また、本発明のその他の特徴とするところは、上記積極的な提示が要求されるユーザのプロファイルが格納された個別ファイルには認証鍵を割当てず、自由なアクセスを可能にしたことを特徴としている。

また、本発明のその他の特徴とするところは、上記積極的な提示が要求されるユーザのプロファイルは、使用言語、要望する入出力インターフェース、これ以後の階層に認証処理を行うための情報、上記記憶媒体の所有者の基本情報であることを特徴としている。

また、本発明のその他の特徴とするところは、上記高度なセキュリティが必要なユーザのプロファイルは、ユーザの嗜好に関する情報、同一記憶媒体内に存在する他の個別ファイルの認証鍵情報、上記記憶媒体の所有者のプライバシーに関する情報を含むことを特徴としている。

また、本発明のその他の特徴とするところは、上記記憶媒体はICカードであることを特徴としている。

また、本発明のその他の特徴とするところは、上記記憶媒体は携帯端末であることを特徴としている。

【0010】

本発明の情報端末装置は、上記に記載のユーザプロファイルの記憶媒体とデータ通信を行うことが可能に構成されていることを特徴としている。

また、本発明の他の特徴とするところは、上記の何れか1項に記載のユーザプロファイルの記憶媒体が装着された際に、上記ユーザプロファイルの記憶媒体に格納されている上記積極的な提示が要求されるユーザのプロファイル情報に従って、使用言語、入出力インターフェースを含む情報通信環境を、上記ユーザプロファイルの記憶媒体の所有者である利用者の所望の環境に変更することを特徴としている。

また、本発明のその他の特徴とするところは、上記の何れか1項に記載のユーザプロファイルの記憶媒体が装着された際に、上記ユーザプロファイルの記憶媒体に格納されている上記積極的な提示が要求されるユーザのプロファイル情報をを利用して、利用者の同一性判定処理を実行することを特徴としている。

また、本発明の他の特徴とするところは、上記利用者の同一性判定処理の結果、現在の端末装置の利用者が正当なユーザであると判定した場合、上記高度なセキュリティが必要な個別ファイルへのアクセスを行うことを特徴としている。

また、本発明の他の特徴とするところは、上記利用者の同一性判定処理の結果、現在の端末装置の利用者が不当なユーザであると判定した場合、上記高度なセキュリティが必要な個別ファイルへのアクセスは行わずに、今回の利用者の情報を上記記憶媒体に記憶するとともに、少なくともカード発行元及び警察を含む関係機関に通報することを特徴としている。

【0011】

本発明のユーザプロファイルの記憶装置は、ユーザのプロファイルを記憶媒体に記憶するための個別ファイルを階層的に複数層分用意し、高レベルなセキュリティが要求されるユーザのプロファイルは深い階層の個別ファイルに記憶し、積極的な提示が要求されるユーザのプロファイルは浅い階層の個別ファイルに記憶する手段を具備することを特徴としている。

また、本発明の他の特徴とするところは、ユーザのプロファイルを記憶媒体に記憶するための個別ファイルを階層的に複数層分用意し、高レベルなセキュリテ

イが要求されるユーザのプロファイルは認証処理が必要な個別ファイル、または認証処理が必要な個別ファイルの下層に記憶する手段と、積極的な提示が要求されるユーザのプロファイルは深い階層の個別ファイルに記憶する手段とを具備することを特徴としている。

また、本発明のその他の特徴とするところは、階層的に構成可能な個別ファイル内に存在する、少なくとも1つ以上の情報格納ファイル内に情報を記憶する装置であって、上記個別ファイル毎に独立した認証鍵を割り当てるようにユーザのプロファイルを記憶する装置において、上記ユーザのプロファイルを記憶するための個別ファイルを上記記憶媒体に複数層分用意し、高レベルなセキュリティが要求されるユーザのプロファイルは深い階層の個別ファイルの情報格納ファイルに記憶するとともに、積極的な提示が要求されるユーザのプロファイルは浅い階層の個別ファイルの情報格納ファイルに記憶する手段を具備することを特徴としている。

また、本発明のその他の特徴とするところは、上記積極的な提示が要求されるユーザのプロファイルが格納された個別ファイルには認証鍵を割当てず、自由なアクセスを可能にしたことの特徴としている。

また、本発明のその他の特徴とするところは、上記積極的な提示が要求されるユーザのプロファイルは、使用言語、要望する入出力インターフェース、それ以降の階層に認証処理を行うための情報、上記記憶媒体の所有者の基本情報であることを特徴としている。

【0012】

本発明の記憶媒体は、上記の何れか1項に記載のユーザプロファイルの記憶方法を実行するプログラムをコンピュータから読み出し可能に格納したことの特徴としている。

【0013】

本発明は上記技術手段を有するので、高レベルなセキュリティが要求されるユーザのプロファイルは容易に読み出されないように深い階層の個別ファイルに記憶され、積極的な提示が要求されるユーザのプロファイルは浅い階層の個別ファイルに記憶されることにより、ユーザインターフェースや使用言語等のように、

積極的な提示が要求されるユーザのプロファイルは、初期認証の成功前に端末装置側から読み出すことが可能となり、初期認証の成功以前から、ユーザ所望の入出力インターフェースでの動作が可能となり、しかも高レベルなセキュリティが要求されるユーザのプロファイルのセキュリティを高レベルに確保することが可能となる。

【0014】

【発明の実施の形態】

(第1の実施形態)

本発明のユーザのプロファイルのユーザプロファイルの記憶方法、ユーザプロファイルの記憶媒体、情報端末装置及びコンピュータから読み出し可能な記憶媒体の一実施形態として、自治体等にて用いられる公共情報端末にスマートカード（ＩＣカード）を利用する例を示す。

【0015】

図1は、本実施形態のシステム概念図である。図1において、11が本実施形態のユーザのプロファイルの階層的な記憶媒体であるスマートカードであり、12は上記記憶媒体11を収容する対応端末である公共情報端末、13が上記公共情報端末12と各自治体のホスト（14）との接続を司るネットワークである。上記公共情報端末12にて、利用ユーザのプロファイルに応じた入出力手段の選択、トップメニューのカスタマイズ化等を容易に実現するのが、本実施形態の目的である。

【0016】

図2は、本実施形態におけるスマートカード11上の論理ファイル構造の一例を示す図である。

図2に示したように、MF（マスターファイル）200の下に、スマートカード11に実装されるアプリケーションファイルが設けられている。図2の例では、利用者認証、医療、電子マネー毎にDF（デディケイティトファイル）210, 220, 230が設けられている。

【0017】

上記利用者認証用のデディケイティトファイルDF（210）の下に、カード

加入者の使用言語や要望入出力インターフェース、必要に応じて指紋や顔の特徴の量子化情報といったユーザ認証のためのカード所有者基本情報を格納するためのEF（エレメンタリーファイル）211と端末利用者とが、スマートカード11の加入者の場合に限ってアクセスを許容するセキュリティ情報格納BOXアプリケーション用のデディケイティトファイルDF（212）を設け、この下のエレメンタリーファイルEF（213～215）に、ユーザの嗜好や他のアプリケーション利用のための鍵情報といったセキュリティレベルの高い情報を格納する。

【0018】

また、上記浅い階層に設けられている、利用者認証用のデディケイティトファイルDF（210）のアクセス鍵に関しては一義的な鍵（システムに一意的な値）を割当ることにより、上記スマートカード11が対応端末機器12に装着された際には、セキュリティキーを格納しているエレメンタリーファイルEF201の情報に加えて、セキュリティレベル「0」のユーザ情報として、カード加入者の使用言語や要望入出力インターフェース、必要に応じて指紋や顔の特徴の量子化情報といった、ユーザ認証のためのカード所有者の基本情報を格納するためのエレメンタリーファイルEF（211）を読み出すことを可能な構成としている。

【0019】

端末利用者が、スマートカード11の加入者の場合に限ってアクセスを許容する。そして、セキュリティ情報格納BOXアプリケーション用のデディケイティトファイルDF（212）をアクセスするために必要な鍵は、初期ユーザ認証処理の成功時に入手させる。これにより、セキュリティ情報格納BOXアプリケーション内の情報のセキュリティレベルを担保することができる。

【0020】

上記DF（デディケイティトファイル）220は、医療系の情報を格納するものであり、この下の層に電子カルテアプリケーション用個別ファイル222、エレメンタリーファイルEF221、電子カルテアプリケーション用情報ファイル223、電子カルテアプリケーション用情報ファイル（病歴）224が設けられている。

【0021】

また、DF（デディケイティトファイル）230は電子マネー系アプリケーション用個別ファイルであり、この下の層に電子マネーアプリケーション用情報ファイル（取り引き履歴）231、電子マネーアプリケーション用情報ファイル（残高）232等が設けられている。

【0022】

図3は、本実施形態システムの公共情報端末12に対してスマートカード11を装着した時に、端末利用者確認処理に成功した際のシーケンス例を示す図である。また、図4は、本実施形態システムの公共情報端末12へのスマートカード11を挿入した時に、端末利用者確認処理に失敗した際のシーケンス例を示す図である。これらの図3及び図4に示した処理を、図5のフローチャートを参照しながら説明する。

【0023】

図5に、上記公共情報端末12にスマートカード11を装着した時に行われる処理手順の一例のフローチャートを示している。

先ず、最初のステップS501において、利用者認証アプリケーションが格納されている利用者認証用のデディケイティトファイルDF210の選択処理（図3の301及び302、図4の401及び402）を行い、カード所有者基礎情報用のエレメンタリーファイルEF211にアクセスして、利用者が所望する入出力I/F情報を読み出す（図3の303及び304、図4の403及び404）。

【0024】

次に、ステップS502に進み、これに対応した入出力I/Fを選択して設定する（図3の303及び304、図4の403及び404）。その後、ステップS503に進んで、利用者が所望するインターフェースを用いて利用者認証処理を実行する。これは、上記認証手法に従って上記公共情報端末12を利用する利用者と、上記スマートカード11の所有者との同一性を確認する処理である（図3の305及び306、図4の405及び406）である。

【0025】

次に、ステップS504において、上記ステップS503で実行した認証処理の結果に、スマートカード11の所有者と公共情報端末12の利用者とが一致しているか否かを判断する。

【0026】

ステップS504の判断の結果、カード所有者と端末利用者とが一致しているのであれば、ステップS505に進み、セキュリティ情報BOXアプリケーションであるデディケイティトファイルDF(212)へのアクセスを許容する。

【0027】

次に、ステップS506に進み、セキュリティ情報BOXアプリケーションであるデディケイティトファイルDF(212)との間でユーザ認証処理(図3の307)を行い、スマートカード11内に格納されている他のデディケイティトファイルDF用のパスワードを要求する(図3の308)。そして、それに応答して上記スマートカード11から各アプリケーションパスワードを読み出し(図3の309)、許容サービスに応じた情報アクセスを行う。

【0028】

一方、上記ステップS504の判断の結果、カード所有者と端末利用者が一致しないのであれば、ステップS507に進み、セキュリティ情報BOXアプリケーション用のデディケイティトファイルDF(212)へのアクセスを禁止する。

【0029】

次に、ステップS508に進み、カード利用者が不一致の際の各種セキュリティ処理を自律的に起動(407)する。これは、サービス機能制限、カード発行元への自動通報、端末利用者情報の記録、及び警察への通報等を行う処理である。

【0030】

本実施形態においては、上述のような処理を順次実行することにより、公共情報端末12を利用する際に、初期認証用の情報入力前に、上記公共情報端末12を利用する者が所望する入出力インターフェースを上記公共情報端末12側に認識させることが可能となる。

【0031】

これにより、利用者が所望する入出力インターフェースを使用して情報システムを動作させることができ、所望のユーザ認証手段で、利用者の同一性の確認を行うようにすることができる。

【0032】

また、より高いセキュリティが必要な各種情報に関しては、上記認証処理が成功した後に所望の情報格納ファイルにアクセスを許容するようにしたので、使い勝手を大幅に向上させながら、既存のユーザのプロファイル格納手法と同等のセキュリティレベルを確保することができる。

【0033】

(第2の実施形態)

上記実施形態においては、階層的に構成される個別ファイル毎に独立した認証鍵が付与可能な記憶媒体の例として、ICカードを利用した例を示した。この他にも、携帯端末機器等、他の記憶媒体に本発明を適用することができる。

【0034】

また、利用者が携帯可能な、階層的に構成される個別ファイル毎に独立した認証鍵が付与可能な記憶機能を持つ機器との組み合わせる場合にも良好に利用することができる。

【0035】

図6は、上述したユーザプロファイルの記憶方法及び装置を実現するコンピュータシステムの一例を示す図である。図6において、1200はコンピュータPCである。PC1200は、CPU1201を備え、ROM1202またはハードディスク(HD)1211に記憶された、あるいはフロッピーディスクドライブ(FD)1212より供給される制御ソフトウェアを実行し、システムバス1204に接続される各デバイスを総括的に制御する。上記PC1200のCPU1201、ROM1202またはハードディスク(HD)1211に記憶されたプログラムにより、本実施形態の各処理が実行される。

【0036】

1203はRAMで、CPU1201の主メモリ、ワークエリア等として機能

する。1205はキーボードコントローラ（KBC）で、キーボード（KB）1209等からの入力を制御する。

【0037】

1206はCRTコントローラ（CRTC）で、CRTディスプレイ（CRT）1210の表示を制御する。1207はディスクコントローラ（DKC）で、ブートプログラム（起動プログラム：パソコンのハードやソフトの実行（動作）を開始するプログラム）、複数のアプリケーション、ユーザファイルそしてネットワーク管理プログラム等を記憶するハードディスク（HD）1211、及びフロッピーディスク（FD）1212とのアクセスを制御する。

【0038】

1208はネットワークインターフェースカード（NIC）で、LAN1220を介して、ネットワークプリンタ、他のネットワーク機器、あるいは他のPCと双方向のデータのやり取りを行うものである。さらに、上述した実施形態におけるユーザプロファイルをスマートカード11に書きこむものである。

【0039】

（本発明の他の実施形態）

本発明は複数の機器（例えば、ホストコンピュータ、インターフェース機器、リーダ、プリンタ等）から構成されるシステムに適用しても1つの機器からなる装置に適用しても良い。

【0040】

また、上述した実施の形態の機能を実現するように各種のデバイスを動作させるように、上記各種デバイスと接続された装置あるいはシステム内のコンピュータに対し、上記実施の形態の機能を実現するためのソフトウェアのプログラムコードを供給し、そのシステムあるいは装置のコンピュータ（CPUあるいはMPU）に格納されたプログラムに従って上記各種デバイスを動作させることによって実施したものも、本発明の範疇に含まれる。

【0041】

また、この場合、上記ソフトウェアのプログラムコード自体が上述した実施の形態の機能を実現することになり、そのプログラムコード自体、およびそのプロ

グラムコードをコンピュータに供給するための手段、例えばかかるプログラムコードを格納した記憶媒体は本発明を構成する。かかるプログラムコードを記憶する記憶媒体としては、例えばフロッピーディスク、ハードディスク、光ディスク、光磁気ディスク、CD-ROM、磁気テープ、不揮発性のメモリカード、ROM等を用いることができる。

【0042】

また、コンピュータが供給されたプログラムコードを実行することにより、上述の実施の形態で説明した機能が実現されるだけでなく、そのプログラムコードがコンピュータにおいて稼働しているOS（オペレーティングシステム）あるいは他のアプリケーションソフト等の共同して上述の実施の形態で示した機能が実現される場合にもかかるプログラムコードは本発明の実施の形態に含まれることは言うまでもない。

【0043】

さらに、供給されたプログラムコードがコンピュータの機能拡張ボードやコンピュータに接続された機能拡張ユニットに備わるメモリに格納された後、そのプログラムコードの指示に基づいてその機能拡張ボードや機能拡張ユニットに備わるCPU等が実際の処理の一部または全部を行い、その処理によって上述した実施の形態の機能が実現される場合にも本発明に含まれる。

【0044】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明によれば、高レベルなセキュリティが要求されるユーザのプロファイルは深い階層の個別ファイルに記憶し、積極的な提示が要求されるユーザのプロファイルは浅い階層の個別ファイルに記憶するようにしたので、ユーザインターフェースや使用言語等等のように、積極的な提示が要求されるユーザのプロファイルは、初期認証の成功前に端末装置側から読み出すことができる。これにより、初期認証の成功以前から、ユーザ所望の入出力インターフェースでの動作が可能となり、しかも高レベルなセキュリティが要求されるユーザのプロファイルのセキュリティを高レベルに確保することができる。

【0045】

また、より高いレベルのセキュリティが必要な各種情報に関しては、上記認証処理が成功した後にアクセスを許容するようにして、既存のユーザプロファイル格納手法と同等の高いセキュリティレベルが確保することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

第1の実施形態における公共情報端末にスマートカード（ICカード）を利用したシステムの概念を示す図である。

【図2】

第1の実施形態におけるICカード内の論理ファイル構成を示す図である。

【図3】

端末利用者とICカードの所有者とが一致する際の初期シーケンスを説明する図である。

【図4】

端末利用者とICカード所有者が一致しない際の初期シーケンスを示す図である。

【図5】

ICカードを装着した時に端末側で行われる処理手順の概要を説明するフローチャートである。

【図6】

コンピュータシステムの構成例を示すブロック図である。

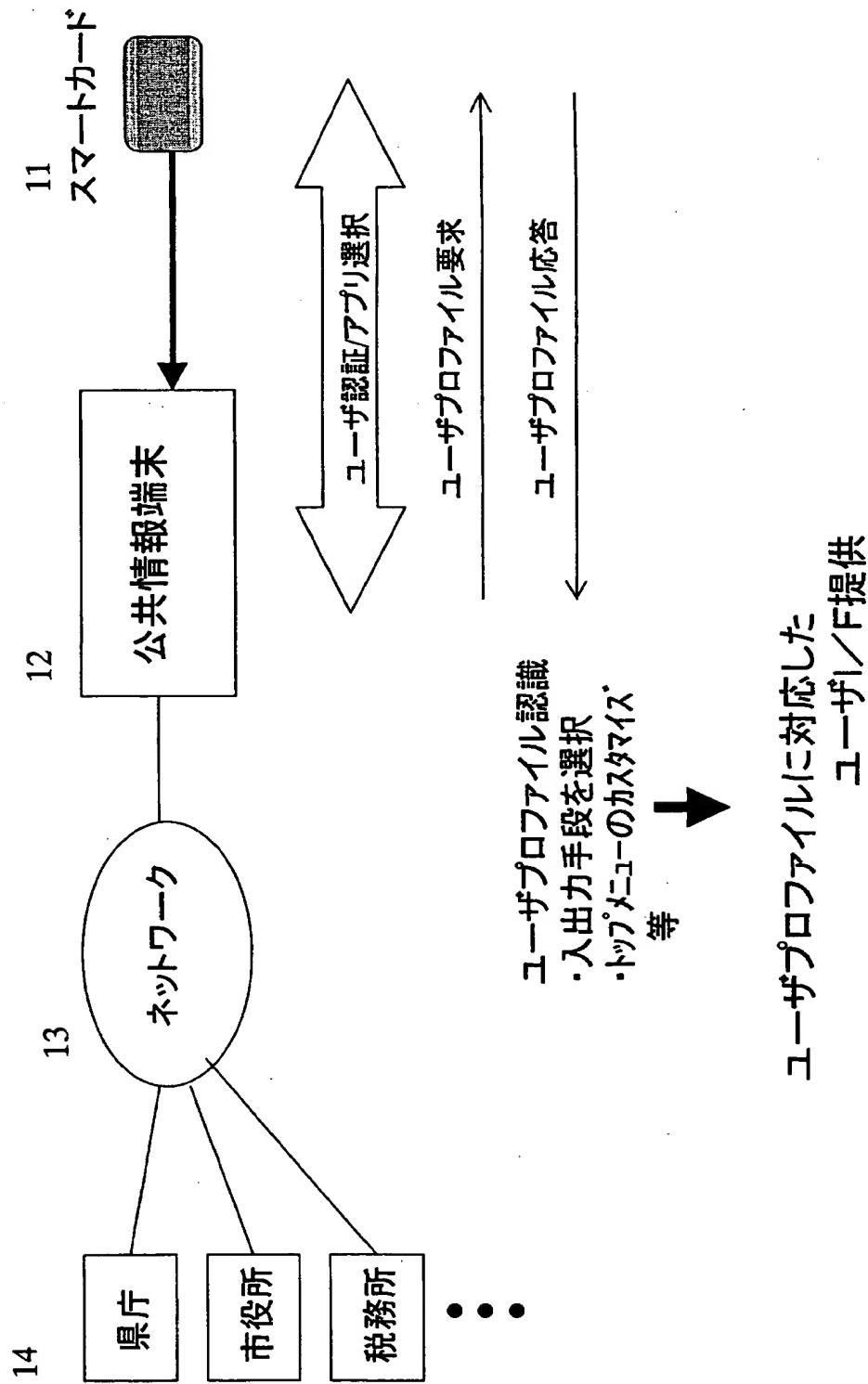
【符号の説明】

- 1 1 スマートカード（ICカード）
- 1 2 公共情報端末
- 1 3 通信ネットワーク
- 1 4 自治体情報サーバー
- 2 0 0 ICカード内主ファイル
- 2 0 1 主ファイル用情報ファイル
- 2 1 0 利用者認証アプリケーション用個別ファイル
- 2 1 1 カード所有者基礎情報格納用情報ファイル

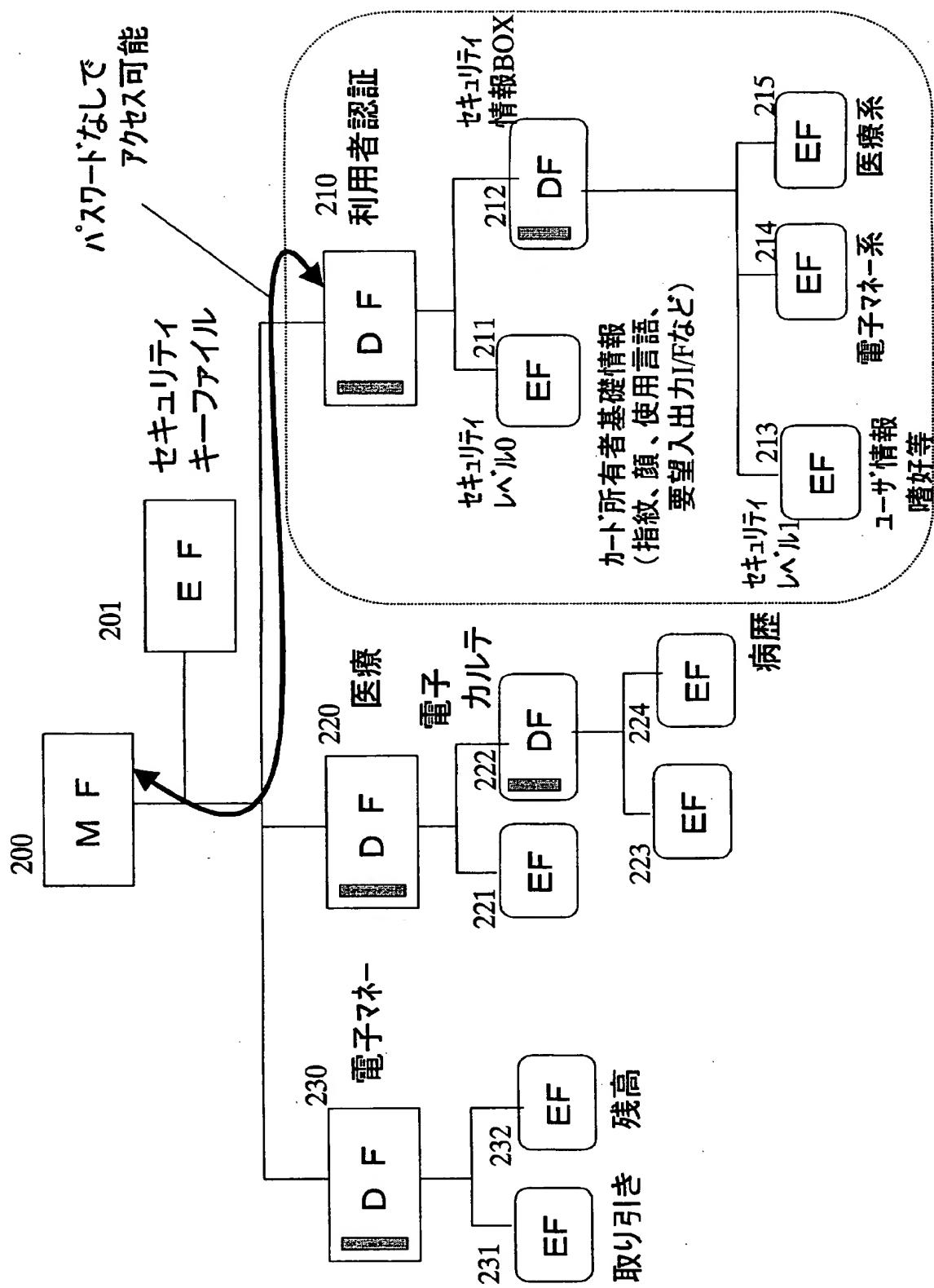
- 212 カード所有者用セキュリティBOXアプリケーション用個別ファイル
- 213 高セキュリティユーザ情報格納用情報ファイル
- 214 電子マネー系個別ファイルアクセス用情報格納ファイル
- 215 医療系個別ファイルアクセス用情報格納ファイル
- 220 医療系アプリケーション用個別ファイル
- 221 医療系アプリケーション用情報ファイル
- 222 電子カルテアプリケーション用個別ファイル
- 223 電子カルテアプリケーション用情報ファイル
- 224 電子カルテアプリケーション用情報ファイル（病歴）
- 230 電子マネー系アプリケーション用個別ファイル
- 231 電子マネーアプリケーション用情報ファイル（取り引き履歴）
- 232 電子マネーアプリケーション用情報ファイル（残高）

【書類名】図面

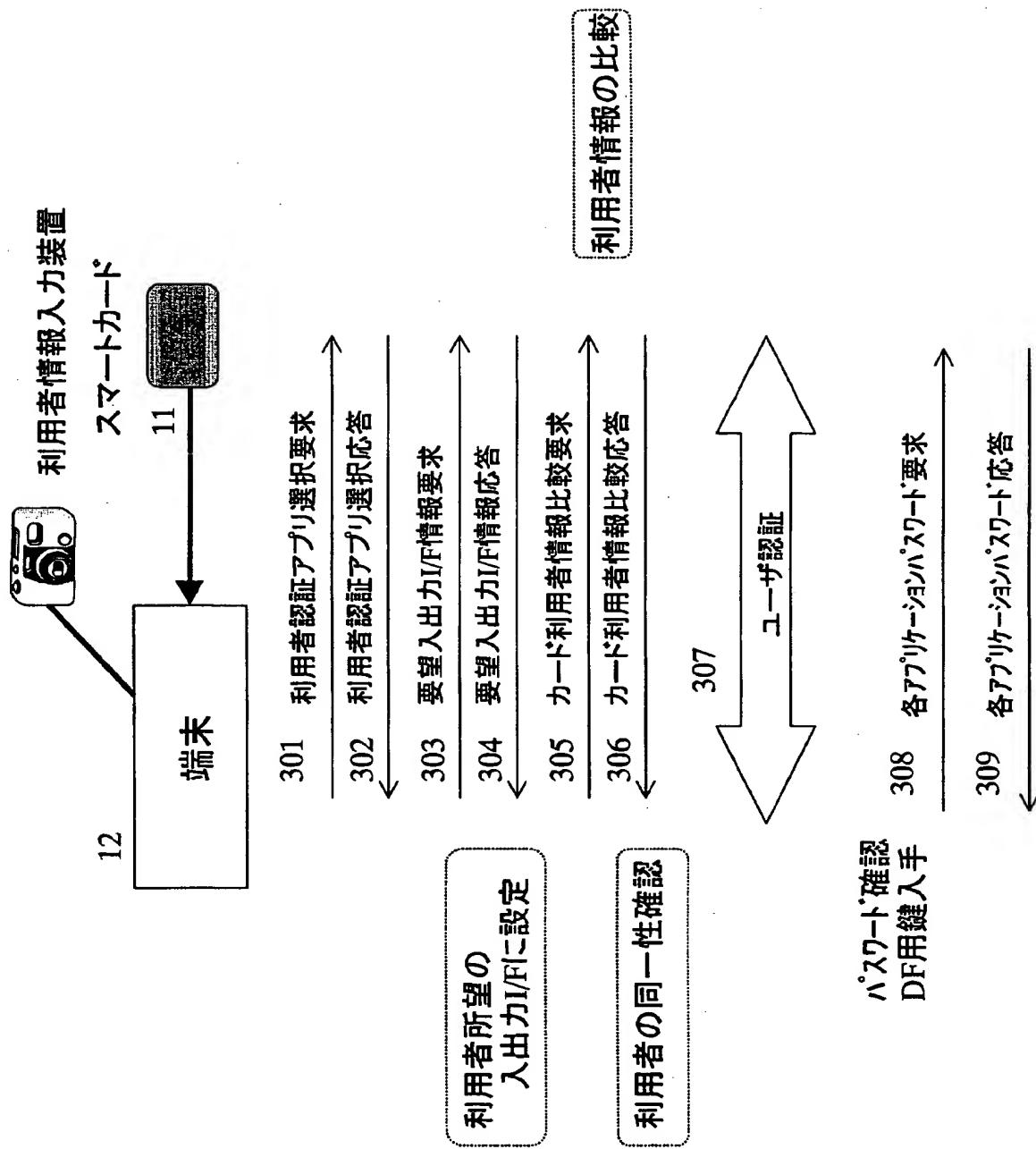
【図1】



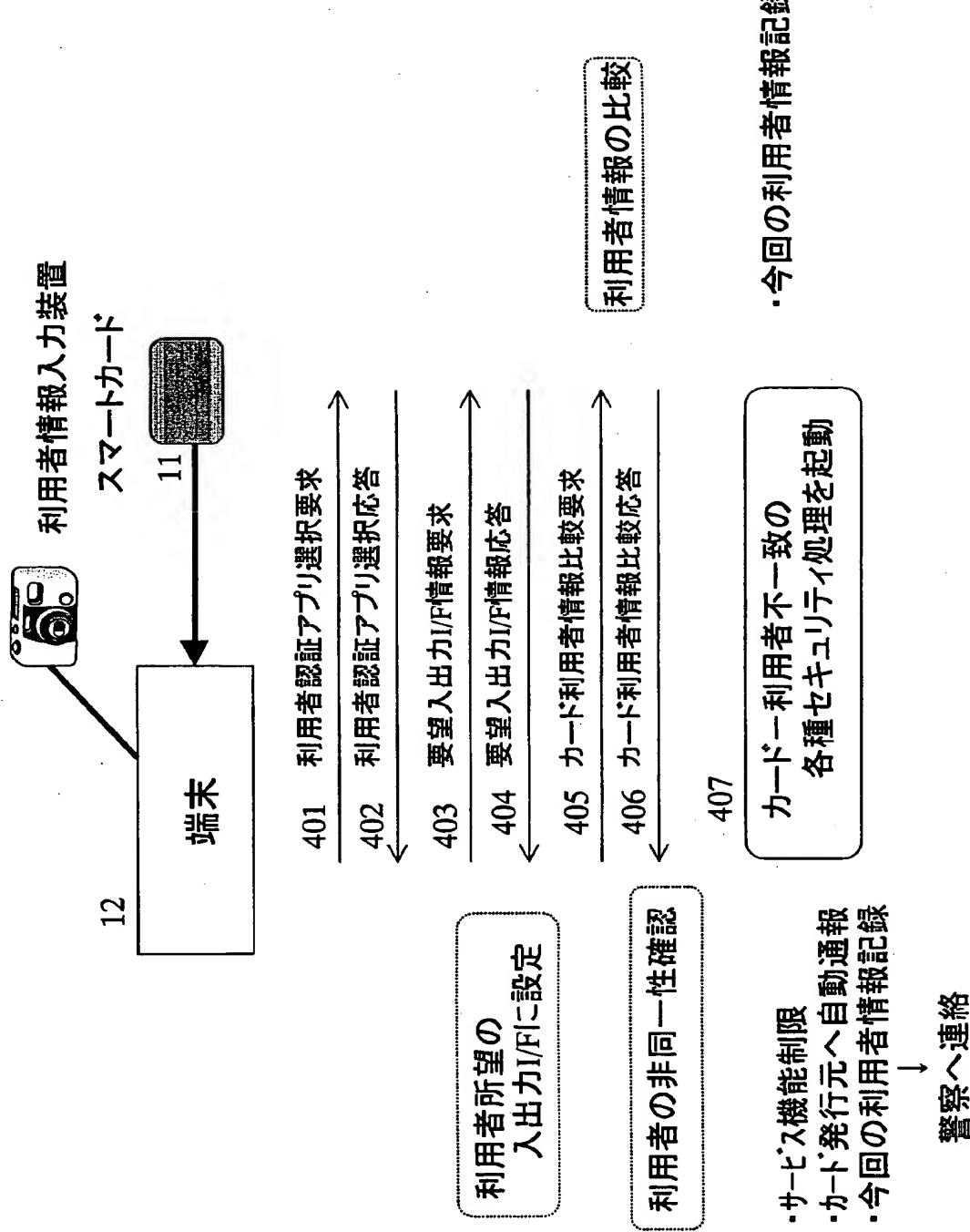
【図2】



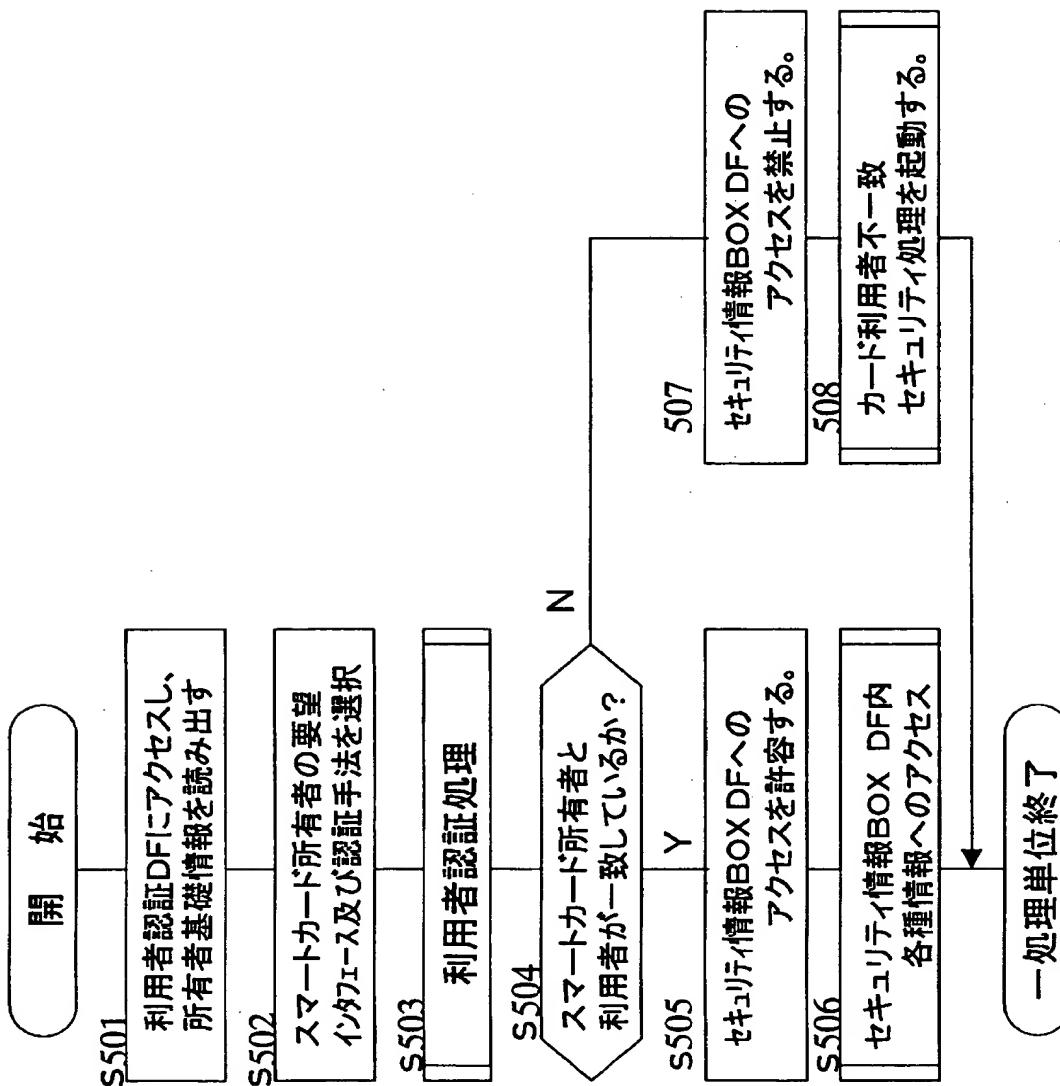
【図3】



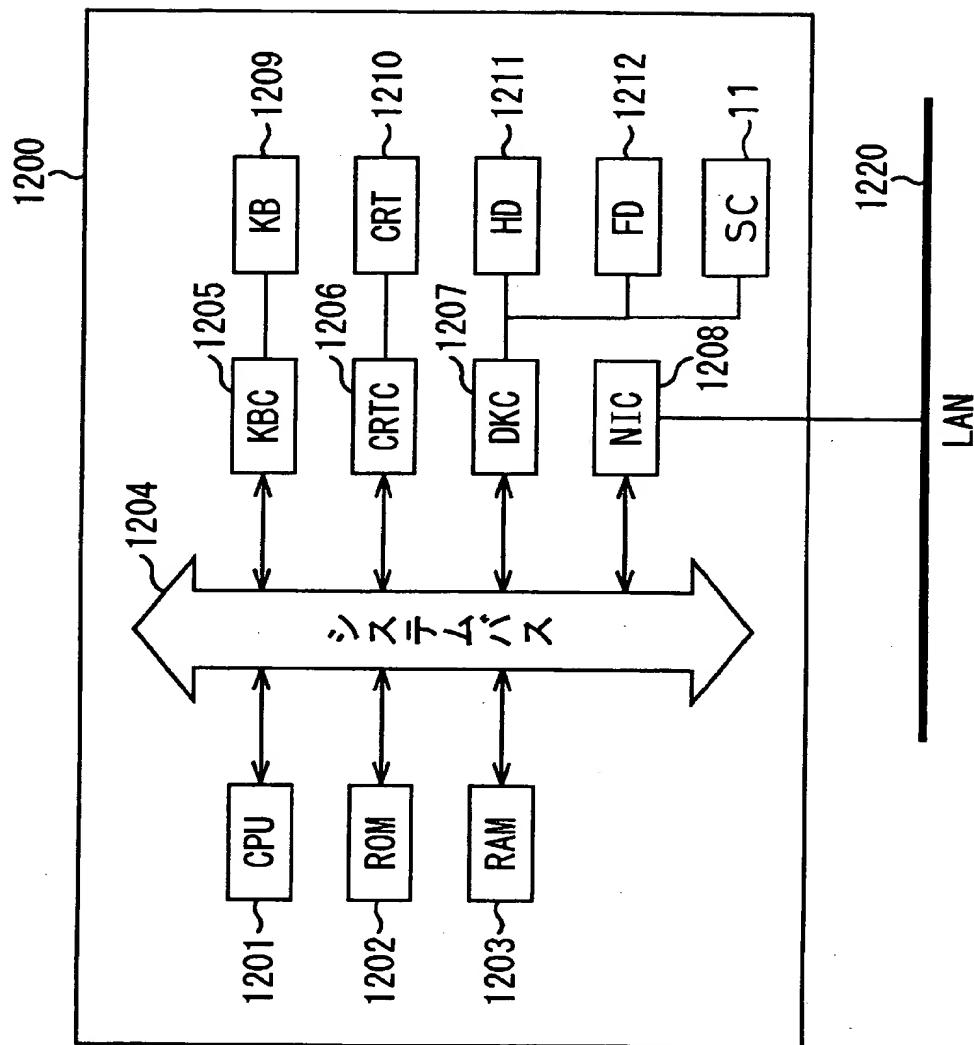
【図4】



【図5】



【図6】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 高レベルなセキュリティが要求されるユーザのプロファイルを確実に保護した上で、ユーザが所望する入出力インターフェースを使用した情報の送受信を行うことができるようとする。

【解決手段】 ユーザのプロファイルを記憶するための個別ファイルを記憶媒体に階層的に複数層分用意し、高レベルなセキュリティが要求されるユーザのプロファイルは深い階層の個別ファイルに記憶し、積極的な提示が要求されるユーザのプロファイルは浅い階層の個別ファイルに記憶することにより、初期認証の成功以前から、ユーザ所望の入出力インターフェースでの動作を可能とし、かつ高レベルなセキュリティが要求されるユーザのプロファイルのセキュリティを高レベルに確保できるようとする。

【選択図】 図1

出願人履歴情報

識別番号 [000001007]

1. 変更年月日 1990年 8月30日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都大田区下丸子3丁目30番2号

氏 名 キヤノン株式会社